

**人権資料・展示
全国ネットワーク
ニュース**

第37号(2008年9月発行)
編集発行：人権資料・展示全国ネットワーク事務局
柳原銀行記念資料館/水俣病センター相
思社/徳島県立博物館/和泉市立人権文化
センター人権資料室(今号編集担当)
URL <http://e-jinken.net/>

**■次期代表・事務局体制決定。
ネットの今後は引き続き議論していきます。**

第12回総会での承認事項、2007年9月に実施した、「今後のネットの運営に関するアンケート」(詳細第36号掲載)を受けて、代表、事務局を第13回総会にて正式に交代します。

代 表	李龍植(丹波マンガン記念館)
事務局	福岡県人権研究所 鳥取市人権情報センター 部落解放・人権研究所(図書室りぶら) 滋賀県人権センター 三重県人権センター

次期代表・事務局は決まりましたが、懸案となっている輪番制について、ネットワークの事業内容について等は、新旧事務局での議論や加盟団体のみなさんからの意見を踏まえ、再度総会にて議論していきます。

第12回総会(2007年7月)承認事項

- ①人権ネットの解散は保留とし、来年度の総会まで1年間議論を深める。
 - ②現事務局は8月中に人権ネットニュース35号を発行し、アンケートにて各団体から意見を求める。9月中には集約し、10月に事務局会議を開き、次の総会開催地、次期事務局などの打診を行う。代表・事務局とも、引継ぎが完了するまで現体制で継続する。事務局は5団体、代表は別枠で一人。
- 併せて事務局の負担軽減として事務局会議に伴う交通費、宿泊費の支給、団体間の交流や情報交換を促進するためのメーリングリストの開設が承認されました。

ニュース第35号(2007年8月)掲載

前回(第12回)の総会では、解散も含めて、ネットの今後についての提案がなされ、加盟団体のみさんから、様々な意見がよせられました。それらをもとに、次期事務局担当団体を決定し、引継ぎ期間として、新旧事務局で第13回総会を準備しました。

事務局での会議やアンケートで寄せられた意見を大別すると、以下のようになります。

【1】事務局について

①現実的に事務局を担えない団体の参加方法をどうするか。また、できる団体の輪番制の仕組みを明確に作ったらどうか。(規約改正による明文化はそのうちのひとつ。)

②地域でグループ分けをして、事務局と総会の引き受け方を工夫してはどうか。

③ネット発足時の中心団体と、未経験団体の組み合わせで事務局を担ってほしい。(現実的にできる団体、できない団体がある。)

【2】ネット運営の今後について

①交流を目的としたゆるやかなネットワークとして継続するのはどうか。

②人権問題への取り組みへの逆風があるので、ネットは今こそ必要。

③展示施設(団体)と展示機能を持たない施設(団体)が同居しているのを整理したらどうか。

総会で再度加盟団体のみさんからの意見を出していただいて、新事務局での運営に反映していきたいと考えています。

■第13回総会での協議事項

加盟団体紹介リーフレット改訂について

次回総会の開催について

次々期代表・事務局について

□規約改正案について

改定案 ※アンダーラインが改正部分

(会員)

第四条 人権ネットは、第二条の目的賛同する人権に関する資料を収集保管、調査研究または展示公開をおこなう博物館、資料館、記念館、人権センター、研究所などをもって会員とし、個人はオブザーバーとする。

会員は、必ず事務局を担うこととし、事務局員が充足しない場合は輪番制にしたがって、積極的に事務局を構成することとする。

(代表)

第六条 人権ネットに代表をおき、代表は会員の互選により定め、任期は2年とするが、再任は妨げないこととする。

(事務) 人権ネットには、事務局をおき、事務局は5名の事務局員で構成する。事務局員は、会員より選ぶ。事務局員が充足しない場合は、会員の輪番制とする。事務局員の任期は2年とするが、再任は妨げないこととする。

第12回総会 (2007年7月、水平社博物館より提案)

ニュース第35号 (2007年8月) 掲載

■加盟団体交流用メーリングリスト運用中。

団体や個人どのアドレスでも参加できます。ヤフーグループという無料サービスを利用しています。2008年8月現在で15アドレスが登録されています。

参加方法は、

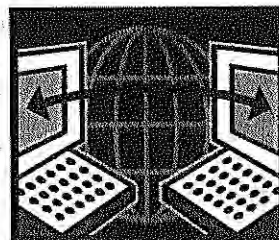
<http://groups.yahoo.co.jp/group/jknl2007/>

で手続きをするか、管理担当者まで連絡をください。

和泉市立人権文化センター人権資料室・吉岡隼平

Eメール：m471560@ican.zaq.ne.jp

電話：0725-47-1560



ニュースの発行滞り、発行遅れをお詫びいたします。(編集担当)

丹波マンガン記念館よりお知らせ

丹波マンガン記念館は1986年より準備を開始しました。京北町の町長に第三セクターと一緒に博物館を作らないかと持ちかけました。マンガンは朝鮮人の強制連行や被差別部落の人が働いた歴史、じん肺の歴史を展示するのがわかると「そういう歴史は暗い歴史でそういうことを出すとイメージが悪くなる」と断られ、京都府と旧京北町に妨害と非協力にさらされながら個人の力によって3年の歳月をかけ建設をし、1989年(平成元年)に開館しました。

初代館長の李貞鎬が6年、2代目館長の私李龍植が14年運営しました。

それから約20年一度も黒字がなく運営し続けてきました。

開館以来14年、京都府も京北町も一度も補助金をだそうとはしませんでした、いよいよ財政的危機に直面したとき、人権ネットを中心とした皆様の御協力により500万円のカンパを頂きました。

しかし年間500万円の慢性的な赤字はそれからも改善せず、会員は増えることはありませんでした。毎年特別展をし、見学者の増員を図りましたが抜本的な財政赤字を克服するには至りませんでした。

「閉館しよう」と思うたび「丹波マンガン記念館はわしの墓だ」という言葉が頭をよぎり、もう一度、もう一度と続け、家族で李貞鎬の嫁の私の母は年金まで赤字補填に使い続けてきましたが、野外の建物の老朽化、国道9号線の高速道路による162号線(マンガン記念館の前の道)の交通量の減少、母親の高齢化による新たなる人件費の増大、北朝鮮による拉致問題で日本人の強制連行の問題意識の希薄化による見学者の減少等等により閉館を決意しました。

掛橋鉦山でマンガンを200kg~300kg担いだ朝鮮人は強制連行で京北町に連れてこられていたことが解りビデオを作りました。

次にマンガンの正確な歴史を本にして出版しその半年後、丹波マンガン記念館を閉館します。

皆様方にはNPO丹波マンガン記念館を運営、維持する上で多大なる御協力をしていただいたのに閉館することになり紙面の上からですが深く御礼を申し上げます。人権ネットには来年1年は在籍する予定です。引き続きよろしく申し上げます。